

1. 職名・氏名 教授・三浦孝太郎

2. 学位 学位 博士、専門分野 農学、授与機関 名古屋大学、授与年 2008

3. 教育活動

(1) 講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 総合農学（8単位） 1年次
② 内容・ねらい（自由記述） あわらキャンパス内の圃場にて、年間を通じ実際に農作物を栽培し、収穫、加工、消費までを体験する中で、栽培技術、農作業機操作技術、加工・調理技術、簿記技術を身に付けるとともに、農作物と気象、土壌環境、他の生物との関係性を観察、理解し、実験計画法、土壌分析法、雑草・病害虫被害調査法、農作物の収量調査法、統計解析法を学習する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 学生が自由にマイファームで耕作できる様に農機具取扱いを注視するとともに自らも耕作を行い指導に当たった。 【ゲストスピーカー 6人】 【フィールドワーク 24件】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 食農環境・文化概論（4単位） 1年次
② 内容・ねらい（自由記述） 食えることと農業とは本来密接につながっており（食農）、それを取り巻く環境・文化はこの食農と切り離せない存在である。それが本来の「農」であり、「農」とは総合知である。この理念にもとづき、「農」に関わる事柄を実務経験者から直接学び、意見交換をすることによって自分の考えを持つ。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 外部講師による講義では学生から積極的に質問できる様に簡単な質問を先に示す様務めた。 【ゲストスピーカー 16人】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 食農環境実習Ⅰ（2単位） 1年次
② 内容・ねらい（自由記述） 福井県内全域を学びの場として、実際に「農」の現場を訪れると共に、あわらキャンパス内圃場を使って、農作物の栽培、農・海産物の収穫、加工、消費、および共同体活動を広く体験する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実習先で学生が積極的に自分の考えを示すことが出来る様に、自分が感じた何気ないことも積極的に口に出す様務めた。 【ゲストスピーカー 33人】 【フィールドワーク 27件】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 食農環境演習Ⅰ（4単位） 1年次
② 内容・ねらい（自由記述） 食農環境実習Ⅰで体験したことについて学生各自で日誌にまとめ、その都度、教員に提出する。また体験したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループディスカッションを実施する

ための準備を行う。 ③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実習で得たデータの活用方法や、特任講師から学んだ事をプレゼンテーションし、自分で得たデータや調査資料を用いてその活用方法を学べるようにした。 【ゲストスピーカー 33 人】 【フィールドワーク 27 件】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 食農環境実習Ⅱ（2単位）2年次 ② 内容・ねらい（自由記述） 福井県内全域を学びの場として、実際に「農」の現場を訪れると共に、あわらキャンパス内圃場を使って、農作物の栽培、農・海産物の収穫、加工、消費、および共同体活動を広く体験する。 ③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実習先で学生が積極的に自分の考えを示すことが出来る様に、自分が感じた何気ないことも積極的に口に出す様務めた。 【ゲストスピーカー 34 人】 【フィールドワーク 22 件】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 食農環境演習Ⅱ（4単位）2年次 ② 内容・ねらい（自由記述） 食農環境実習Ⅰで体験したことについて学生各自で日誌にまとめ、その都度、教員に提出する。また体験したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループディスカッションを実施するための準備を行う。 ③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実習で得たデータの活用方法や、特任講師から学んだ事をプレゼンテーションし、自分で得たデータや調査資料を用いてその活用方法を学べるようにした。 【ゲストスピーカー 34 人】 【フィールドワーク 22 件】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 福井を学ぶ（2単位）1・2・3年次 ② 内容・ねらい（自由記述） 15名の教員によるオムニバス形式で実施し、福井の自然・社会・経済・文化に関する理解を深める。1コマ分「コシヒカリの育成とこれからの育種」を担当。 ③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 全学部の学生が対象であり、主に1年生が聴講しているため、できる限り専門用語を少なく分かりやすい講演に心がけた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 育種学実験Ⅱ（1単位）3年次 ② 内容・ねらい（自由記述） 育種の現場で利用できるDNAシーケンスについて理解し、技術を習得する。 ③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実験の原理について、海外研究者の動画を利用するなど、理解しやすいよう工夫した。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 育種学Ⅱ（2単位）創造農学科1・2・3年次、生物資源学科3年次 ② 内容・ねらい（自由記述） 雑種強勢育種法や「DNA マーカー選抜法」に加えて、「QTL 育種法」や「遺伝子組換え作物」、「ゲノム編集」といった最新の育種技術とその利用について解説する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 理解を深めるために、海外の研究者が発信している動画や、実例を多く紹介した。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 先端農業技術活用論（2単位）3年次
② 先端的な農業技術（IoT、AI、GPS、ドローン、機械学習、衛星利用、農業資材、育種技術、施設園芸、植物工場等）について実践的に活用している講師をオムニバス形式で招き、それらの現在の活用方法を学び、未来型農業の実現のためにこれらの技術をどう活用するか、さらにどんな技術を求めるかを議論する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 最新の技術や活用事例を紹介し、理解を深めるために、海外の研究者が発信している動画や実例を多く紹介した。特任講師の授業では積極的に質問できるよう促した。 【ゲストスピーカー 9人】 【フィールドワーク 1件】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 食品加工実習（1単位）3年次
② 内容・ねらい（自由記述） 農産物加工の基礎、食品衛生管理、6次産業化に関する素養を身につける。6次産業に関連する県内施設・企業の見学、食品加工実習を行う。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実習先で学生が積極的に自分の考えを示すことが出来る様に、自分が感じた何気ないことも積極的に口に出す様務めた。 【ゲストスピーカー 18人】 【フィールドワーク 0件】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 農業戦略論（2単位）3年次
② 内容・ねらい（自由記述） 企業による農業ビジネスや種苗ビジネスの戦略から酪農や有機農業、農産物の小売、卸売、共同販売などの経営・販売戦略まで、実際に起業している経営者らを講師に招き、農業経営、企業経営などの経営戦略を理解し、広く農業の戦略について考える。また、その前段階として世界の食料問題を考察する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実習先で学生が積極的に自分の考えを示すことが出来る様に、自分が感じた何気ないことも積極的に口に出す様務めた。 【ゲストスピーカー 7人】 【フィールドワーク 1件】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業論文（8単位） 創造農学科4年次
② 内容・ねらい 研究することとは、どのような活動かを体得する。原著論文を読み、問題点を明確にし、作業仮説に対して解答を得る試みを実際に行う。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 丁寧な実験、再現性、結果の解釈、考察等が自ら行えるよう指導した。専門外の人にもわかりやすくプレゼンテーションすることを意識して指導した。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 専攻演習（2単位） 創造農学科4年次
② 内容・ねらい 受講者は原著論文を2報精読し発表する。原著論文に引用されている文献や研究背景を理解した上で発表する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 原著論文（序論、実験手法、結果、考察）を、正確に読みこなすこと、また、わかりやすくプレゼンテーションをすることを心がけて指導した。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 実践育種学（2単位） 大学院修士課程
② 内容・ねらい 従来の植物育種、微生物育種及び最新の育種研究・育種法を解説する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 遺伝資源の収集やスクリーニング、新規遺伝資源の開発手法や取扱いなど、古典的な手法から最新の手法まで幅広く理解する。 【ゲストスピーカー 3人】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 創造農学専攻演習Ⅰ・Ⅱ（4単位） 大学院修士課程
② 内容・ねらい 食・農・環境分野に関する最新の総説や学術論文や文献を読み、受講者がその内容や意義を発表し、講義の場で、講評と討議を行う。 また、定期的に修士論文研究の進展状況（研究の位置付け、目標、方法、結果、考察など）を発表し、研究遂行上の戦略・戦術についての議論を深める。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 本演習を通して、修士論文研究を進める上で必要となる科学的な思考力と解析力を養成することを目標とする。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 分子生物学専攻特別演習（4単位） 大学院博士課程
② 内容・ねらい 博士論文の研究テーマに関する研究のレビューを行うことを目的とする。最新の原著論文を読み込み、自分の研究テーマの立ち位置を理解することを目的としている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 関連分野の論文を総合してレビューした後、内容に関する質問に対し適切にディフェンスできる様指導している。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 創造農学専攻実験Ⅰ・Ⅱ（8単位） 大学院修士課程
② 内容・ねらい 農作物の品種改良による実用品種の開発および生産・利用に関する研究、農業分野や産業分野に向けた微生物資材の開発研究、雑草管理を中心とした生態・環境に関する研究、地域農政に関する研究を行い、その成果を取りまとめる。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 各自が必要とする実験手段、詳細に理解し、実験によって得られた結果を合理的に解釈できる様になることを目的としている。また、社会で必要となるプレゼンテーション技術を習得できるようわかりやすい内容にする事を指導している。
(2)その他の教育活動
内容 1. 未来共創プラットフォームふくい主催：進路探求ワークショップ「農業と経済」 令和7年10月13日 2. 金津高校食農環境ゼミの運営 令和7年12月9日 3. 高志中学校対象研修「高志学」令和8年3月6日

4. 研究業績

(1) 研究業績の公表	
① 著書 なし	【0 本】
② 学術論文（査読あり） 1. Takashima T., Azumahara H., Hirano H., Hirata S., Fukuda M., Lamsal S., Miura K., Iwasaki Y., Fukao T. The heterotrimeric G protein γ 3 subunit, RGG3/GS3, integrates sugar-starvation and hormone-responsive signaling pathways to promote coleoptile elongation during anaerobic germination in rice. <i>Plant Mol. Biol.</i> 116: s11103-025-01667-6.(2025)	【1 本】
③ その他論文（査読なし） なし	【0 本】
④ 学会発表等 1. <u>三浦孝太郎</u> 、石川陸哉、早川亜美、岩城茉莉、白岩舜、山口航平、高城啓一 早生と難脱粒を併せ持つ酒米「山田錦 FW2 号」の育成 日本育種学会 第 149 回講演会 令和 8 年 3 月 21-22 日 茨城大学 2. 松田成永 <u>三浦孝太郎</u> コシヒカリ極早生変異体なつさかりの栽培評価と原因遺伝子の解析 日本育種学会 第 149 回講演会 令和 8 年 3 月 21-22 日 茨城大学 3. 山内竣介 本多峻資 高橋正和 <u>三浦孝太郎</u> コメの高タンパク化を目指した遺伝的研究 日本育種学会 第 149 回講演会 令和 8 年 3 月 21-22 日 茨城大学 4. 河端一輝 <u>三浦孝太郎</u> 倒伏抵抗性を向上する <i>gw2</i> と <i>Apo1</i> の遺伝子集積効果の検証日本育種学会 第 149 回講演会 令和 8 年 3 月 21-22 日 茨城大学 5. 羽柴俊介 高城啓一 畑下昌範 <u>三浦孝太郎</u> コシヒカリ大粒変異体「ピカツンタ」の高品質化の取り組み 日本育種学会 第 149 回講演会 令和 8 年 3 月 21-22 日 茨城大学 6. 松田成永 <u>三浦孝太郎</u> コシヒカリ極早生変異体なつさかりの早生化遺伝子の同定と機能解析 北陸作物・育種談話会第 62 回講演会 令和 7 年 11 月 27-28 日 福井県国際交流会館 7. 山内竣介 本多峻資 高橋正和 <u>三浦孝太郎</u> コメの高タンパク化に関する遺伝育種的研究 北陸作物・育種談話会第 62 回講演会 令和 7 年 11 月 27-28 日 福井県国際交流会館 8. 河端一輝 <u>三浦孝太郎</u> 倒伏抵抗性を向上する <i>gw2</i> と <i>Apo1</i> のピラミディング効果の検証 北陸作物・育種談話会第 62 回講演会 令和 7 年 11 月 27-28 日 福井県国際交流会館 9. 羽柴俊介 畑下昌範 <u>三浦孝太郎</u> 高温に遭遇しない「高品質ピカツンタ」の育成	

北陸作物・育種談話会第 62 回講演会 令和 7 年 1 1 月 27-28 日 福井県国際交流会館	
10. 三輪 彦輝 三屋 楓 松井 咲来 卷田 恵理奈 <u>三浦 孝太郎</u> 高橋 正和 γ-オリザノール (OZ) 高含有玄米の創出に向けた OZ 含量増強遺伝子の探索 日本食品科学工学会中部支部 受賞講演及び支部大会 令和 7 年 12 月 13 日 岐阜大学	
	【10 件】
1. 三浦孝太郎 さらなる猛暑に耐える高温耐性イネ育成の取り組み 環日本海 5 大学アライアンスシンポジウム日本の食料を支える一日本海側稲作生産の革新に向けてー 令和 7 年 12 月 8 日 東京大学 招待講演	
	【1 本】
(2) 科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】	
1. 科研費基盤 B「野生イネの恒常的アポプラストバリア形成機構の解明とその育種利用の基盤構築」550 万円 (2025～2029) (分担者) 2. 科研費基盤 C「イネ玄米 γ-オリザノールの分子育種ならびに機能解析」165 万円 (2025～2027) (分担者) 3. 若狭湾エネルギー研究センター・共同研究 「重イオンビーム照射技術の主要穀物育種における社会実装」 283 万円 (2025～2026) (分担者) 4. 若狭湾エネルギー研究センター・共同研究「変異誘発促進技術を用いた有用新品種候補の育成」 99 万円 (2025～2026) (分担者) 5. 奨学寄附金 (福井精米株式会社) 63 万円 (2025 年 4 月 16 日) 6. 共同研究 (アサヒバイオサイクル株式会社) 「イネ生産におけるビール酵母細胞壁水熱反応物の有効性の確認」 110 万円 (2025 年 12 月 25 日)	
【学内】	
1. 戦略的課題研究推進事業「農地 (水田・畑) のカーボンニュートラルの実現に向けて: 温室効果ガスの放出抑制技術の最適化とその効果の検証」30万円 (2025年・7月～) (分担者) 2. 地域連携研究推進支援「福井県での栽培に最適化した酒米「新山田錦」の品種登録及び実用化研究」135万円 (2025年・7月～) (代表者)	
(3) 特許等取得	
1. 品種登録出願 「山田錦 FW2 号」 出願番号 第 37950 号 出願公表日 2025 年 7 月 8 日	
(4) 学会活動等	
日本育種学会第 150 回講演会 (2026 年 8 月実施予定) 運営委員会・委員長 (2025 年 4 月～)	

5. 地域・社会貢献活動

1. 福井県池田町「未来へ耕す池田米プロジェクト」審査委員(2025 年 4 月～)

6. 大学運営への参画

(1) 補職
(2) 委員会・チーム活動
1. 時間割・共通科目検討協議会 2. 創造農学科カリキュラム担当 3. 生物資源開発研究センター運営委員 4. 食の 6 次産業化プロデューサー担当 5. 創造農学科 3 年生副担任 6. 創造農学科 2 年生担任 7. 設備整備委員
(3) 学内行事への参加
入学式・保護者懇談会 (2025 年 4 月 7 日) オープンキャンパス(2025 年 8 月 2 日, 3 日) 白檜祭でおにぎり出店 (2025 年 10 月 18 日) あわらキャンパス収穫祭の担当教員 (2025 年 11 月 3 日)
(4) その他、自発的活動など
1. 大学発ベンチャー「県大アグリ」による県大開発米「ピカツンタ」「ふくむすめ」の種もみ販売事業 (2020 年 12 月 25 日～)